

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「文学部研究業績評価基準細則」の定期的な見直しを実施する。	→「文学部研究業績評価基準細則」	A	B	B	B	A
2. 現在、ネイティブの教員がいない外国文学語学の専修において、ネイティブの教員を任用する。	→文学言語学科の各専修(英米文学英語学専修・フランス文学フランス語学・ドイツ文学ドイツ語学)におけるネイティブの教員数	A	A	B	A	A
3. 現状のままでは2013年度に61歳以上の教員比率は32%になるが、この比率を上回らないように人事施策を進める。	→専任教員の年齢構成比率	B	B	B	B	A
☆						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「文学部研究業績評価基準細則」は2年ごとに見直すことが附則に盛り込まれている。2013年度は文学部人事手続きに基づき2名の後任人事が行われ、助教と教授の採用に至った。人事委員会では「細目」の検討を行ったが、改善を要する問題はなかった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 人事委員会では、「文学部研究業績評価基準細則」により人事審査部会から推薦された第一候補の業績ポイントを確認している。客観的な指標は職位を決めるときに役立っている。ポイント数は基準であり、人事審査のすべてではないことを人事委員会は認識している。文学部人事手続きは透明・厳正に行われている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「細目」を継続して使用し、改善策が必要かどうか人事委員会で検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 文学言語学科では英語、フランス語、ドイツ語がネイティブの教員をそれぞれの該当専修で任用している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ネイティブの教員による文学言語学科の授業を開講している。外国語研修に参加する文学部学生が増えている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 文学言語学科の3専修(英米文学英語学、ドイツ文学ドイツ語学、フランス文学フランス語学)におけるネイティブの専任教員の所属を維持する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度、30歳代の教員2名と50歳代前半の教員1名を採用した。2014年度、退職にともなう人事で30歳代前半の助教と40歳代後半の教授を採用した。さらに4名の退職(3名は定年)に伴う後任人事により、2015年度には30歳代から40歳代の教員がさらに増えることが予測され、教員の年齢構成は明らかに改善する。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 専任教員の退職に伴う後任人事により、文学部専任教員の年齢構成の問題は改善した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 年齢構成も考慮に入れて文学部の人事施策を進める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)	人	48.0	46.8	45.8	45.5	43.6	学部	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	55.9	55.4	55.4	52.8	55.1	学部、センター、研究所
		教養教育	%	25.5	21.7	23.3	19.5	22.5	
指標3	教員組織における女性教員の比率	%	19.4	19.4	19.4	19.7	19.4	学部、センター、研究所	
指標4	本学出身の専任教員の構成比率	%	42.3	40.3	40.3	39.4	38.9	学部、センター、研究所	
指標5	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.6	12.5	12.4	11.8	12.0	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	14.0	11.8	11.2	12.7	11.2	
		講師	時間	—	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	8.3	